

イチゴの市場出荷体制の整備支援

湖北農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

湖北地域のイチゴは、高設栽培の普及に伴い新規栽培者が増加し、平成 23 年度は 44 戸約 2.7ha で生産されています。販売は直売が主体となっていますが、さらに生産拡大を図るため、今後は市場出荷の増加が必要と考えられます。そこで、長浜市場・J A と連携し、地域の生産者が安心して市場へ出荷できるような体制づくりを支援しました。

【普及活動の成果】

（１）市場・J A と連携した出荷体制の整備

今年度、当課が調整役となり、生産者、長浜市場（株式会社長浜合同青果）、J A（レーク伊吹、北びわこ）による話し合いを進めてきました。その結果、市場を事務局として出荷組織を立ち上げ、これまで生産者ごとに違っていた荷姿（包装資材等）を統一し、J A を通じて出荷を行うことが合意されました。

これを受け、平成 24 年 1 月 20 日に「湖北莓出荷協議会」が設立され、新たな体制による市場出荷が始まりました。



出荷協議会設立総会

（２）規格の統一でブランド化を目指す

産地としてロットをまとめて販売するには、包装資材だけでなく大きさ・個数等の規格を揃えることが求められます。協議会では、大果品種に対応した規格表を作成し、定期的な目合わせ会の実施により目揃えの徹底を図っています。初めて出荷する生産者と熟練者ではまだ差があるものの、徐々に改善の兆しが見られ、目合わせの効果が現れています。

今後も、品質の向上、計画出荷の実現、生産履歴の整備等を図りながら、「湖北イチゴ」のブランド化を目指す協議会の活動を支援していきます。



コンテナで出荷されたイチゴ